

News Release

プルデンシャル生命保険株式会社

〒100-0014 東京都千代田区永田町2-13-10 プルデンシャルタワー
<http://www.prudential.co.jp>



Prudential

平成 22 年 8 月 11 日

プルデンシャル生命保険株式会社

平成 22 年度第 1 四半期業績報告

プルデンシャル生命保険株式会社（代表取締役社長兼最高経営責任者 ジョン・ハンラハン）の平成 22 年度第 1 四半期業績について下記の通りお知らせします。

保有契約（個人保険・個人年金）は、保有契約件数が 248 万 5,554 件と前年同期末比で 4.7%の増加、保有契約高は 27 兆 1,919 億円と前年同期末比 1.8%増加しました。保有契約年換算保険料も前年同期末比 2.7%増の 3,930 億円となりました。

新契約（個人保険・個人年金）は、新契約件数が 5 万 5,287 件と、前年同期比 1.4%減少しました。新契約高は前年同期比 1.7%増の 6,308 億円となり、新契約年換算保険料は前年同期比 5.7%増の 107 億円となりました。

保険料等収入は前年同期比 2.9%増の 1,255 億円、基礎利益は同 6.2%増の 145 億円、当期純利益は同 26.6%増の 76 億円となりました。経営の健全性を示すソルベンシー・マージン比率は平成 21 年度末の 1,262.7%から 1,338.6%へと 75.9 ポイント改善し、総資産は前年同期末比 8.8%増の 2 兆 5,880 億円となりました。

添付資料：①平成 22 年度第 1 四半期報告について

②参考資料：証券化商品等への投資及びサブプライム関連投資の状況

平成22年度第1四半期報告について

目 次

P. 1	1. 主要業績
P. 3	2. 一般勘定資産の運用状況
P. 5	3. 四半期貸借対照表
P. 6	4. 四半期損益計算書
P. 11	5. 経常利益等の明細（基礎利益）
P. 12	6. ソルベンシー・マージン比率
P. 13	7. 特別勘定の状況
	8. 当社及び子会社等の状況



1. 主要業績

(1) 保有契約高及び新契約高

・保有契約高

(単位:件、億円、%)

区 分	平成22年度 第1四半期会計期間末				平成21年度末	
	件 数	金 額		件 数	金 額	
		前年度末 比	前年度末 比			
個人保険	2,386,427	100.9	268,339	99.9	2,364,701	268,694
個人年金保険	99,127	99.3	3,580	99.4	99,821	3,603
団体保険	-	-	2	98.2	-	2
団体年金保険	-	-	60	90.3	-	66

- ※ 1. 個人年金保険については、年金支払開始前契約の年金支払開始時における年金原資と年金支払開始後契約の責任準備金を合計したものです。
2. 団体年金保険については、責任準備金の金額です。

・新契約高

(単位:件、億円、%)

区 分	平成21年度 第1四半期累計期間				平成22年度 第1四半期累計期間					
	件 数	金 額			件 数	金 額				
		新契約	転換による 純増加			前年 同期比	前年 同期比	新契約	転換による 純増加	
個人保険	56,087	6,201	6,201	-	55,287	98.6	6,308	101.7	6,308	-
個人年金保険	10	0	0	-	-	0.0	-	0.0	-	-
団体保険	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
団体年金保険	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

- ※ 1. 件数は、新契約に転換後契約を加えた数値です。
2. 新契約・転換による純増加の個人年金保険の金額は年金支払開始時における年金原資です。

(2) 年換算保険料

・保有契約

(単位:百万円、%)

区 分	平成22年度 第1四半期会計期間末		平成21年度末
		前年度末比	
個人保険	373,999	99.6	375,459
個人年金保険	19,085	100.2	19,048
合 計	393,085	99.6	394,508
うち医療保障・ 生前給付保障等	58,921	101.3	58,165

・新契約

(単位:百万円、%)

区 分	平成21年度 第1四半期累計期間	平成22年度 第1四半期累計期間	前年同期比
個人保険	10,205	10,790	105.7
個人年金保険	5	-	0.0
合 計	10,210	10,790	105.7
うち医療保障・ 生前給付保障等	1,801	2,204	122.4

- ※ 1. 年換算保険料とは、1回あたりの保険料について保険料の支払方法に応じた係数を乗じ、1年あたりの保険料に換算した金額です(一時払契約等は、保険料を保険期間で除した金額)。
2. 「うち医療保障・生前給付保障等」については、医療保障給付(入院給付、手術給付等)、生前給付保障給付(特定疾病給付、介護給付等)、保険料払込免除給付(障害を事由とするものは除く。特定疾病罹患、介護等を事由とするものを含む)等に該当する部分の年換算保険料を計上しています。

2. 一般勘定資産の運用状況

(1) 資産の構成

(単位:百万円、%)

区 分	平成22年度 第1四半期会計期間末		平成21年度末	
	金 額	占 率	金 額	占 率
現預金・コールローン	76,982	3.1	58,376	2.4
買現先勘定	-	-	-	-
債券貸借取引支払保証金	14,291	0.6	9,316	0.4
買入金銭債権	30,176	1.2	30,345	1.2
商品有価証券	-	-	-	-
金銭の信託	-	-	-	-
有価証券	2,059,214	83.1	2,045,233	84.2
公社債	1,563,671	63.1	1,534,683	63.2
株 式	5	0.0	5	0.0
外国証券	478,630	19.3	492,693	20.3
公社債	463,976	18.7	477,829	19.7
株式等	14,654	0.6	14,864	0.6
その他の証券	16,906	0.7	17,852	0.7
貸付金	195,850	7.9	195,945	8.1
不動産	10,803	0.4	10,831	0.4
繰延税金資産	21,299	0.9	21,627	0.9
その他	68,810	2.8	56,806	2.3
貸倒引当金	△ 83	△ 0.0	△ 94	△ 0.0
合計	2,477,345	100.0	2,428,389	100.0
うち外貨建資産	11,853	0.5	10,749	0.4

(注) 「不動産」については土地・建物・建設仮勘定を合計した金額を計上しております。

(2) 有価証券の時価情報(売買目的有価証券以外の有価証券のうち時価のあるもの)

(単位:百万円)

区 分	平成22年度第1四半期会計期間末					平成21年度末				
	帳簿価額	時 価	差 損 益			帳簿価額	時 価	差 損 益		
			うち差益	うち差損				うち差益	うち差損	
満期保有目的の債券	198,407	199,702	1,295	7,498	△6,202	199,258	191,246	△8,012	1,213	△9,226
責任準備金対応債券	1,485,854	1,594,266	108,411	110,046	△1,634	1,448,131	1,466,233	18,102	28,506	△10,403
子会社・関連会社株式	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他有価証券	349,177	375,243	26,066	34,679	△8,613	374,344	397,813	23,469	30,721	△7,252
公社債	68,902	70,731	1,829	2,067	△238	80,455	81,449	993	1,158	△165
株式	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
外国証券	267,854	293,221	25,367	32,067	△6,700	280,988	303,775	22,787	29,121	△6,333
公社債	263,866	289,767	25,901	32,027	△6,126	276,897	300,111	23,213	29,068	△5,855
株式等	3,988	3,454	△534	39	△573	4,090	3,664	△426	52	△478
その他の証券	9,749	8,326	△1,422	241	△1,663	9,749	9,456	△292	441	△734
買入金銭債権	2,671	2,963	292	303	△11	3,150	3,132	△18	-	△18
譲渡性預金	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	2,033,438	2,169,212	135,773	152,223	△16,450	2,021,733	2,055,293	33,559	60,441	△26,882
公社債	1,561,842	1,674,224	112,381	112,835	△453	1,533,690	1,553,795	20,104	29,744	△9,639
株式	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
外国証券	431,962	455,125	23,163	37,484	△14,321	447,929	461,408	13,478	29,907	△16,428
公社債	427,973	451,671	23,697	37,445	△13,748	443,839	457,744	13,904	29,855	△15,950
株式等	3,988	3,454	△534	39	△573	4,090	3,664	△426	52	△478
その他の証券	9,749	8,326	△1,422	241	△1,663	9,749	9,456	△292	441	△734
買入金銭債権	29,884	31,536	1,651	1,662	△11	30,364	30,632	268	347	△79
譲渡性預金	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(注)満期保有目的の債券には買入金銭債権が含まれております。

・時価を把握することが極めて困難と認められる有価証券の帳簿価額は以下の通りです。

(単位:百万円)

区分	平成22年度 第1四半期会計期間末	平成21年度末
満期保有目的の債券	10,929	10,929
非上場外国債券	10,929	10,929
その他	-	-
責任準備金対応債券	-	-
子会社・関連会社株式	-	-
その他有価証券	19,785	19,600
非上場国内株式(店頭売買株式を除く)	5	5
非上場外国株式(店頭売買株式を除く)	11,200	11,200
非上場外国債券	-	-
その他	8,580	8,395
合計	30,714	30,529

(注)時価を把握することが極めて困難と認められる有価証券のうち、外貨建資産について為替を評価した差損益は以下の通りです。
(平成22年第1四半期会計期間末:△2,081百万円、平成21年度末:△1,625百万円)

(3) 金銭の信託の時価情報

該当ございません。

3. 四半期貸借対照表

(単位:百万円)

期 別 科 目	平成22年度 第1四半期会計期間末 (平成22年6月30日現在)	平成21年度末 要約貸借対照表 (平成22年3月31日現在)
	金 額	金 額
(資産の部)		
現金及び預貯金	16,317	17,115
コールローン	60,800	41,500
債券貸借取引支払保証金	14,291	9,316
買入金銭債権	30,176	30,345
有価証券	2,166,109	2,157,831
(うち国債)	(1,220,128)	(1,196,817)
(うち地方債)	(41,957)	(42,212)
(うち社債)	(336,660)	(328,868)
(うち株式)	(41,569)	(47,010)
(うち外国証券)	(496,574)	(511,883)
貸付金	195,850	195,945
保険約款貸付	127,568	125,711
一般貸付	68,282	70,233
有形固定資産	12,374	12,490
無形固定資産	4,185	4,401
再保険貸	7,067	7,220
その他資産	59,632	48,314
繰延税金資産	21,299	21,627
貸倒引当金	△83	△94
資産の部合計	2,588,021	2,546,014
(負債の部)		
保険契約準備金	2,396,927	2,366,504
支払備金	13,291	12,906
責任準備金	2,382,090	2,352,008
契約者配当準備金	1,544	1,589
再保険借	12,531	16,224
その他負債	55,060	41,723
未払法人税等	5,580	2,883
その他の負債	49,480	38,839
退職給付引当金	14,379	13,921
役員退職慰労引当金	1,627	1,807
特別法上の準備金	7,930	7,026
価格変動準備金	7,930	7,026
再評価に係る繰延税金負債	18	18
負債の部合計	2,488,476	2,447,225
(純資産の部)		
資本金	29,000	29,000
資本剰余金	20,439	20,439
資本準備金	20,439	20,439
利益剰余金	33,106	34,490
利益準備金	4,500	2,700
その他利益剰余金	28,606	31,790
繰越利益剰余金	28,606	31,790
株主資本合計	82,546	83,929
他有価証券評価差額金	16,651	15,094
繰延ヘッジ損益	2,690	2,107
土地再評価差額金	△2,342	△2,342
評価・換算差額等合計	16,999	14,858
純資産の部合計	99,545	98,788
負債及び純資産の部合計	2,588,021	2,546,014

4. 四半期損益計算書

(単位:百万円)

科目	期別	平成21年度第1四半期累計期間 (平成21年4月1日から 平成21年6月30日まで)	平成22年度第1四半期累計期間 (平成22年4月1日から 平成22年6月30日まで)
		金額	金額
経常収益		149,054	145,231
保険料等収入		122,022	125,550
(うち保険料)		(111,780)	(115,216)
資産運用収益		26,300	17,948
(うち利息及び配当金等収入)		(16,419)	(16,131)
(うち有価証券売却益)		(40)	(300)
(うち金融派生商品収益)		-	(747)
(うち特別勘定資産運用益)		(9,427)	-
その他経常収益		731	1,732
経常費用		139,674	131,787
保険金等支払金		69,250	70,821
(うち保険金)		(8,427)	(8,621)
(うち年金)		(2,973)	(3,163)
(うち給付金)		(3,231)	(2,934)
(うち解約返戻金)		(26,479)	(27,173)
(うちその他返戻金)		(320)	(322)
責任準備金等繰入額		45,919	30,469
支払備金繰入額		804	385
責任準備金繰入額		45,112	30,081
契約者配当金積立利息繰入額		2	1
資産運用費用		4,397	10,070
(うち支払利息)		(5)	(1)
(うち有価証券売却損)		(162)	(11)
(うち有価証券評価損)		(1,093)	(615)
(うち金融派生商品費用)		(2,957)	-
(うち特別勘定資産運用損)		-	(8,511)
事業費		17,482	17,699
その他経常費用		2,625	2,727
経常利益		9,379	13,443
特別利益		90	11
固定資産等処分益		89	-
貸倒引当金戻入額		0	11
その他特別利益		0	-
特別損失		451	1,269
固定資産等処分損		71	16
価格変動準備金繰入額		380	904
その他特別損失		-	348
税引前四半期純利益		9,018	12,186
法人税及び住民税		3,400	5,609
法人税等調整額		△ 399	△ 1,040
法人税等合計		3,001	4,569
四半期純利益		6,017	7,616

<重要な会計方針>

平成22年度第1四半期会計期間末

重要な会計方針

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

有価証券(買入金銭債権のうち有価証券に準じるものを含む)の評価は、売買目的の有価証券については時価法(売却原価の算定は移動平均法)、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法(定額法)、「保険業における「責任準備金対応債券」に関する当面の会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第21号)に基づく責任準備金対応債券については移動平均法による償却原価法(定額法)、その他有価証券のうち時価のあるものについては、6月末日の市場価格等に基づく時価法(売却原価の算定は移動平均法)、それ以外の有価証券については移動平均法による原価法によっております。

なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

2. デリバティブ取引の評価基準

デリバティブ取引の評価は、時価法によっております。

3. 土地の再評価

平成17年2月1日に合併した旧あおば生命保険株式会社においては、「土地の再評価に関する法律」(平成10年3月31日公布 法律第34号)に基づき事業用土地の再評価を行い、再評価差額金を純資産の部に計上しております。

再評価を行った年月日:平成14年3月31日

同法律第3条第3項に定める再評価の方法:「土地の再評価に関する法律施行令」(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第1号に定める地価公示法の規定により公示された価格等に奥行補正等の合理的な調整を行って算定しております。

4. 有形固定資産の減価償却の方法

有形固定資産の減価償却の方法は、次の方法によっております。

・建物

- ① 平成10年3月31日以前に取得したもの
旧定率法によっております。
- ② 平成10年4月1日から平成19年3月31日までに取得したもの
旧定額法によっております。
- ③ 平成19年4月1日以降に取得したもの
定額法によっております。

・建物以外

- ① 平成19年3月31日以前に取得したもの
旧定率法によっております。
- ② 平成19年4月1日以降に取得したもの
定率法によっております。

なお、有形固定資産のうち取得価額が10万円以上20万円未満のものについては、3年間で均等償却を行っております。

5. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建資産・負債は、当第1四半期会計期間末日の為替相場により円換算しております。

6. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

貸倒引当金は、資産の自己査定基準および償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。破産、民事再生等、法的形式的な経営破綻の事実が発生している債務者(「破綻先」という)に対する債権及び実質的に経営破綻に陥っている債務者(「実質破綻先」という)に対する債権については、債権額から担保の回収可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を個別貸倒引当金として計上しております。また、現状、経営破綻の状況にはないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者(「破綻懸念先」という)に対する債権については、債権額から担保の回収可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を個別貸倒引当金として計上しております。上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績等から算出した貸倒実績率を債権額に乗じた額を一般貸倒引当金として計上しております。

債権は、一部重要性の乏しい債権を除き、資産の自己査定基準に基づき関連部署が資産査定を実施し、その査定結果に基づいて上記の引当を行っております。

(2) 退職給付引当金

退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、退職給付に係る会計基準(「退職給付に係る会計基準の設定に関する意見書」平成10年6月16日企業会計審議会)に基づき、当第1四半期会計期間末において発生したと認められる額を計上しております。

平成22年度第1四半期会計期間末

(3) 役員退職慰労引当金

役員退職慰労引当金は、役員の退職慰労金の支払いに備えるため、取締役、監査役および執行役員に係る退職慰労金の当第1四半期会計期間末要支給額を内規に基づき引当計上しております。

(4) 価格変動準備金

価格変動準備金は、保険業法第115条の規定に基づき年間見積り額を期間按分する方法により算出した額を計上しております。

7. リース取引の処理方法

リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、引き続き通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

8. ヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法は、「金融商品に関する会計基準」(平成18年8月11日 企業会計基準委員会)に従い、その他有価証券のうち外貨建有価証券の為替変動リスク又は金利変動リスクのヘッジとして時価ヘッジ、並びにキャッシュフローのヘッジとして繰延ヘッジを適用しております。外貨建満期保有目的債券については為替の振当処理を行っております。

なお、ヘッジの有効性の判定には、主に、ヘッジ対象とヘッジ手段の時価変動を比較する比率分析によっております。

9. 消費税の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。ただし、資産にかかる控除対象外消費税等のうち、税法に定める繰延消費税等については、その他資産に計上し5年間で均等償却し、繰延消費税等以外のものについては、当第1四半期累計期間に費用処理しております。

10. 責任準備金の積立方法

責任準備金は、保険業法第116条の規定に基づく準備金であり、保険料積立金については次の方式により計算しています。

- ① 標準責任準備金の対象契約については金融庁長官が定める方式(平成8年大蔵省告示第48号)
- ② 標準責任準備金の対象とならない契約については、平準純保険料式

11. 無形固定資産の減価償却の方法

ソフトウェアについては、利用可能期間に基づく定額法によって行っております。

会計方針の変更

1. 当第1四半期累計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号)を適用しております。これに伴い、その他資産が362百万円減少しております。また、経常利益が13百万円減少し、税引前当期純利益が362百万円減少しております。

<注記事項>

(四半期貸借対照表関係及び株主資本等変動計算書関係)

平成22年度第1四半期会計期間末

1. 契約者配当準備金の異動状況は以下のとおりであります。

イ.	前年度末現在高	1,589	百万円
ロ.	当第1四半期累計期間契約者配当金支払額	47	百万円
ハ.	利息による増加等	1	百万円
ニ.	契約者配当準備金繰入額	-	百万円
ホ.	その他による減少	0	百万円
ヘ.	当第1四半期会計期間末現在高	1,544	百万円

2. 担保に供されている資産の額は、有価証券14,501百万円であります。また、担保付き債務の額は14,693百万円であります。

3. ローンパーティシペーションで、平成7年6月1日付日本公認会計士協会会計制度委員会報告第3号に基づいて原債務者に対する貸付債権として会計処理した参加元本金額のうち、貸借対照表計上額は55,618百万円であります。

4. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当四半期 会計期間末 株式数
発行済株式	
普通株式	480,000
合計	480,000

5. 配当金支払額

平成22年6月21日の定時株主総会において、以下の通り決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

(イ)	配当金の総額	9,000	百万円
(ロ)	1株あたり配当額	18,750	円
(ハ)	基準日	平成22年3月31日	
(ニ)	効力発生日	平成22年6月21日	

6. 株主資本の金額の著しい変動

(単位:百万円)

	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	株主資本 合計
前期末残高	29,000	20,439	34,490	83,929
当第1四半期会計期間末 までの変動額				
剰余金の配当			△9,000	△9,000
四半期純利益			7,616	7,616
当第1四半期会計期間末 までの変動額合計			△1,383	△1,383
当第1四半期会計期間末残高	29,000	20,439	33,106	82,546

7. 金額は記載単位未満を切捨てて表示しております。

<注記事項>

(四半期損益計算書関係)

平成22年度第1四半期累計期間

1. 1株あたり四半期純利益の金額は15,867円34銭であります。
2. 金額は記載単位未満を切捨てて表示しております。

5. 経常利益等の明細(基礎利益)

(単位:百万円)

	平成21年度 第1四半期累計期間	平成22年度 第1四半期累計期間
基礎利益 A	13,674	14,521
キャピタル収益	111	1,048
金銭の信託運用益	-	-
売買目的有価証券運用益	-	-
有価証券売却益	40	300
金融派生商品収益	-	747
為替差益	70	-
その他キャピタル収益	-	-
キャピタル費用	4,213	1,423
金銭の信託運用損	-	-
売買目的有価証券運用損	-	-
有価証券売却損	162	11
有価証券評価損	1,093	615
金融派生商品費用	2,957	-
為替差損	-	796
その他キャピタル費用	-	-
キャピタル損益 B	△ 4,102	△ 375
キャピタル損益含み基礎利益 A+B	9,572	14,146
臨時収益	-	-
再保険収入	-	-
危険準備金戻入額	-	-
その他臨時収益	-	-
臨時費用	192	703
再保険料	-	-
危険準備金繰入額	192	703
個別貸倒引当金繰入額	-	-
特定海外債権引当勘定繰入額	-	-
貸付金償却	-	-
その他臨時費用	-	-
臨時損益 C	△ 192	△ 703
経常利益 A+B+C	9,379	13,443

6. ソルベンシー・マージン比率

(単位:百万円)

項目	平成22年度 第1四半期会計期間末	平成21年度末
ソルベンシー・マージン総額 (A)	271,501	257,707
資本金等	82,546	74,929
価格変動準備金	7,930	7,026
危険準備金	15,865	15,162
一般貸倒引当金	43	43
その他有価証券の評価差額×90%(マイナスの場合100%)	23,459	21,122
土地の含み損益×85%(マイナスの場合100%)	△2,152	△2,152
全期チルメル式責任準備金相当額超過額	127,647	129,717
持込資本金等	-	-
負債性資本調達手段等	-	-
控除項目	-	-
その他	16,161	11,858
リスクの合計額 $\sqrt{(R_1+R_8)^2 + (R_2 + R_3 + R_7)^2} + R_4$ (B)	40,563	40,818
保険リスク相当額 R_1	10,332	10,254
第三分野保険の保険リスク相当額 R_8	3,268	3,267
予定利率リスク相当額 R_2	7,853	7,771
資産運用リスク相当額 R_3	25,857	26,297
経営管理リスク相当額 R_4	1,014	1,019
最低保証リスク相当額 R_7	3,425	3,361
ソルベンシー・マージン比率 $\frac{(A)}{(1/2) \times (B)} \times 100$	1,338.6%	1,262.7%

- ※
1. 上記は、保険業法施行規則第86条、第87条、第161条、第162条及び第190条、平成8年大蔵省告示第50号の規定に基づいて算出しています(「全期チルメル式責任準備金相当額超過額」は告示第50号第1条第3項第1号に基づいて算出しています)。
 2. 「資本金等」は、貸借対照表の「純資産の部合計」から、社外流出予定額、評価・換算差額等合計額を控除した額を記載しています。
 3. 最低保証リスク相当額の算出に際して、平成8年大蔵省告示第48号に基づく、標準的方式により算出しています。

7. 特別勘定の状況

(1) 特別勘定資産残高の状況

(単位:百万円)

区 分	平成22年度 第1四半期会計期間末		平成21年度末	
	件数	金額	件数	金額
個人変額保険		107,732		114,563
個人変額年金保険		2,943		3,061
団体年金保険		-		-
特別勘定計		110,676		117,625

(2) 保有契約高

・個人変額保険

(単位:件、百万円)

区 分	平成22年度 第1四半期会計期間末		平成21年度末	
	件数	金額	件数	金額
変額保険(有期型)	5,093	10,553	5,190	10,714
変額保険(終身型)	197,385	1,134,340	197,751	1,138,900
合 計	202,478	1,144,894	202,941	1,149,615

・個人変額年金保険

(単位:件、百万円)

区 分	平成22年度 第1四半期会計期間末		平成21年度末	
	件数	金額	件数	金額
個人変額年金保険	363	3,129	365	3,207
合 計	363	3,129	365	3,207

8. 当社及び子会社等の状況

該当ございません。

証券化商品等への投資及びサブプライム関連投資の状況

概要

- (1) 平成22年6月末において、弊社の保有する証券化商品等への投資及びサブプライム関連投資の残高は約2,789億円となっております。主なものについては以下の通りです。
- USサブプライム関連の証券化商品等のエクスポージャーは約21億円となっております。
 - 住宅金融支援機構の発行するMBSが約585億円、日本国債を裏付とした商品が1,052億円あります。
- (2) 本資料は、金融安定化フォーラム(FSF)によるリスク開示の提言に基づき作成されたものです。

I. サブプライム関連投資の状況

1. 投資状況

①サブプライム・Alt-Aエクスポージャー

(単位:億円)

	時価	含み損益	実現損益
サブプライム・Alt-Aエクスポージャー	21	1	0
債務担保証券(CDO)	-	-	-
証券化されていないローン	-	-	-
RMBS	21	1	0
デリバティブ	-	-	-
コミットメントライン	-	-	-
その他	-	-	-

2. 格付別残高

(単位:億円)

	投資適格債券				投資適格未満債券	その他の有価証券	合計
	AAA ~ AAA-	AA+ ~ AA-	A+ ~ A-	BBB+ ~ BBB-	BB+ 以下		
サブプライム・Alt-Aエクスポージャー	6	6	0	0	7	-	21
合計	6	6	0	0	7	-	21

格付について: 格付については、ムーディーズ、スタンダード&プアーズ及びフィッチの格付の中央値を採用しております。
3社全ての格付がない場合のみ、格付け投資情報センター、日本格付研究所または社内の格付けを使用しております。

Ⅱ. サブプライム以外の証券化商品への投資

1. 投資状況

①特別目的事業体(SPEs)一般

(単位:億円)

		時価	含み損益	実現損益
特別目的事業体(SPEs)一般		101	△ 5	△ 0
	ABCP	-	-	-
	うち当社が組成するSPEs	-	-	-
	SIV	-	-	-
	うち当社が組成するSPEs	-	-	-
その他 *1		101	△ 5	△ 0
	うち当社が組成するSPEs	-	-	-

*1: うち81億円は匿名組合への出資であり、主に不動産関連に投資をしております。

②債務担保証券(CDO)

(単位:億円)

		時価	含み損益	実現損益
債務担保証券(CDO)		-	-	-
	ABS - CDO	-	-	-
	シニア	-	-	-
	うちサブプライム・Alt-Aエクスポートジャー	-	-	-
	メザニン	-	-	-
	うちサブプライム・Alt-Aエクスポートジャー	-	-	-
	エクイティ	-	-	-
	うちサブプライム・Alt-Aエクスポートジャー	-	-	-
	CLO	-	-	-
	シニア	-	-	-
	メザニン	-	-	-
エクイティ	-	-	-	
CBO	シニア	-	-	-
	メザニン	-	-	-
	エクイティ	-	-	-
その他	シニア	-	-	-
	メザニン	-	-	-
	エクイティ	-	-	-

③商業用不動産担保証券(CMBS)

(単位:億円)

		時価		含み損益	実現損益
			参考:平成22年3月末		
商業用不動産担保証券(CMBS)		196	203	18	△ 4
	日本	39	37	5	△ 4
	米国	116	123	4	-
	欧州	12	15	1	0
	英国	28	26	6	0
	その他	-	-	-	-

④レバレッジド・ファイナンス

(単位:億円)

		時価		含み損益	実現損益
			参考:平成22年3月末		
レバレッジド・ファイナンス		-	-	-	-
	通信	-	-	-	-
	電機	-	-	-	-
	娯楽	-	-	-	-
	サービス	-	-	-	-
	その他	-	-	-	-

⑤その他 - 住宅ローン債権担保証券(RMBS)

(単位:億円)

		時価	含み損益	実現損益
住宅ローン債権担保証券(RMBS)		899	33	-
	日本 *2	899	33	-
	米国	-	-	-
	欧州	-	-	-
	英国	-	-	-
	その他	-	-	-

*2: うち、585億円は住宅金融支援機構(旧住宅金融公庫)の発行するMBSです。

⑤その他 - ヘッジファンド

(単位:億円)

	時価	含み損益	実現損益
ヘッジファンド	19	0	0

⑤その他 - その他

(単位:億円)

	時価	含み損益	実現損益
その他仕組債	1,552	102	0
SPCの発行するリバースデュアル債券・ローン *3	1,052	52	-
コール条項付き永久劣後債・優先出資証券 *4	315	2	△ 0
クレジット・デフォルト・スワップ *5	7	7	△ 1
その他の資産担保証券	176	39	2
その他	-	-	-

*3: リバースデュアル債券・ローンは日本国債を裏付資産とし利払いをドルで受け取る仕組みの債券です。一般企業が発行するものは除きます。

*4: コール条項付き劣後債とは主に銀行向け劣後ローン及びそれを裏付けとした債券です。

*5: クレジット・デフォルト・スワップは全てプロテクションの買いポジションであります。

2. 格付別残高

(単位:億円)

	投資適格債券				投資適格未満債券	その他の有価証券	合計
	AAA ~ AAA-	AA+ ~ AA-	A+ ~ A-	BBB+ ~ BBB-	BB+ 以下		
特別目的事業体(SPEs)一般	-	-	-	-	-	101	101
債務担保証券(CDO)	-	-	-	-	-	-	-
商業用不動産担保証券(CMBS)	127	6	18	16	27	-	196
レバレッジド・ファイナンス	-	-	-	-	-	-	-
住宅ローン債権担保証券(RMBS)	873	20	5	-	-	-	899
ヘッジファンド	-	-	-	-	-	19	19
その他仕組債	34	771	544	151	50	-	1,552
合計	1,035	798	568	167	78	120	2,768

格付について: 格付については、ムーディーズ、スタンダード&プアーズ及びフィッチの格付の中央値を採用しております。

3社全ての格付がない場合のみ、格付け投資情報センター、日本格付研究所または社内の格付けを使用しております。

<各種証券化商品の用語について>

ABCP(Asset Backed Commercial Paper): 資産担保コマーシャルペーパー
 SIV(Structured Investment Vehicle): ストラクチャード・インベストメント・ビークル (=投資目的会社)
 ABS(Asset Backed Securities): 資産担保証券
 CDO(Collateralized Debt Obligation): 債務担保証券
 ABS-CDO(Asset Backed Securities - CDO): 資産担保証券を担保として発行される債務担保証券
 CLO(Collateralized Loan Obligation): ローンを担保に発行される債務担保証券
 CBO(Collateralized Bond Obligation): 債券を担保に発行される債務担保証券
 RMBS(Residential Mortgage-Backed Securities): 住宅ローン担保証券
 CMBS(Commercial Mortgage-Backed Securities): 商業用不動産ローン担保証券